

2024年3月期第3四半期 決算説明会 Q&A (2024年1月31日開催)

Q1. 値上げの浸透状況について、地域によって差はあるか？

A1. 前期末に実施した値上げについては、徐々に浸透してきています。原材料価格や為替の動向などを考慮しながら、来期以降も地域ごとに検討していきます。

Q2. アメリカの航空機案件はマキノにとって受注単価改善につながると理解しているが、航空機向けの受注は増えそうか？

A2. コロナウイルスの影響で低迷していた反動もあり、前期から増加しています。機体の構造部品だけではなく、エンジン部品についても同様の状況が続いているため、今後、航空機向けの受注は増えていくと想定しています。航空機向けの機種は、小さい機種も含めて付加価値の高い機械であり、受注単価も改善すると考えています。

Q3. 第3四半期の受注は計画を下回ったが、第4四半期は持ち直すと見通している背景を説明してほしい。

特にアジア地域において、一般的にEV（電気自動車）の設備投資が回復するという話が少ない中、マキノの受注は堅調とのことだが、第4四半期についても引き続き受注があるのか？

A3. 自動車の生産台数は中国、日本、アメリカともに増加してきており、来期もこの状況が続く見通しです。加えて人手不足が進む中、生産性向上のための自動化に対する需要が高まってきており、自動車向けの受注は増えていくと想定しています。

その他にも、航空機・EV・半導体向けにおける現在の商談を受注に結び付けることで、第4四半期の受注計画を達成できると考えています。

Q4. 半導体製造装置向け受注の回復が想定よりも遅れているとのことだが、これは全地域的な話なのか？

A4. 日本国内については遅れ気味であり、海外のほうが早く動き出しています。ヨーロッ

パ向けにアジアでの設備投資が早めに動き始めている状況です。日本国内の回復は来期半ば以降にずれ込むと想定しています。

本資料に記載いたしました将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績は、さまざまな要因により、記載された見通しと大きく異なる結果となる可能性があることをご了承ください。

実際の業績に影響を与える重要な要因には、当社の事業を取り巻く経済情勢、社会的動向、当社の提供するサービス等に対する需要動向による相対的競争力の変化等があります。なお業績に影響を与える重要な要因は、これらに限定されるものではありません。